

政策コメンテーター報告(第5回)(意見照会期間:2015年10月22日～11月4日): 中尾 潤 株式会社電通電通総研研究主席

| 質問事項 | | 選択式 回答 | 記述式回答 |
|-------------------|---|-----------|---|
| 経済動向 | | 良くなっている | 電通総研の「消費マインド調査(年4回)」の9月版レポートの結果を見ると、2014年の12月を底にして「消費マインド」の3指標(節約志向/メリハリ志向/増加志向)の「増加志向」が着実に上昇傾向にある。また「メリハリ志向」が微減していることから、消費マインドは上向いていると考えられる。 |
| 1 | 2015年10月下旬から11月上旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2015年7月下旬から8月上旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。なお、政府の景気認識については月例経済報告の中でお示しているのをご参照ください。 | | |
| 「経済・財政一体改革」に向けた取組 | | - | KPIは「手段」なのでKPIが「目的」になると危険。またKPIは「現在価値」が評価されやすく「将来価値」が評価されにくい傾向がある。したがって経済再生のKPIは、「ビジョンとセット」で掲げ、「現在価値だけを評価するのではなく、将来のゴールに繋がるKPIを作る」ことを心がけて欲しい。 また、戦後の「人口ボーナス × 高度成長」時代の評価軸「集中化による効率化 × リーチ拡大による売上増 × コストのダウン」で評価するのではなく、今日の「人口オーナス × 安定成長」の時代に適する「平準化による効率化 × 回転率アップにより売上増 × バリューの向上」に評価軸をシフトさせるべき。 「平準化による効率化」からは、地方創生(脱・大都市集中)、資源・エネルギー(電力自由化や夜間電力活用)、新しい働き方(脱・新卒中心の採用や女性の再就職促進や介護復帰)、観光(脱・トップシーズン)、年金(世代間格差)、働き方(1億総活躍)というテーマが。「回転率アップにより売上増」からは、企業経営(内部留保を減らす)、消費&投資(預貯金)、住宅政策(空家の活用や流動性の促進。移住促進)、公共施設(複合目的使用)といったテーマが。「バリューの向上」からは、医療・介護産業(高度医療の負担。介護の質と料金)、趣味嗜好品市場(市場創造)、技術&発想イノベーション力強化(教育改革)といったテーマが見えてくる。 |
| 2 | 改革工程表・KPIに関する検討状況や上記の議論に関し、特に加速・強化すべき取組について、財政健全化や経済成長への貢献といった観点や、現場・地域の視点などに照らしてお考えがございましたら、500字以内でご記入ください。 | | |